# **NADPZ**

### JULY NEWSLETTER



## ジャガイモ収穫

2021年4月、プロジェクトスタッフはプロジェクトサイトにジャガイモを植え、近隣に住む女性農民の何人かにジャガイモの植え方と世話をする方法を訓練しました。

3か月半後、ようやくジャガイモが収穫され、非常に良い結果が得られました。 右の写真は、ジャガイモを一列収穫した後のハンチムナ組合のペギー・ペンジ です。

ペギーは、ジャガイモの植え付けのトレーニングを受けた5人の女性メンバーの1人であり、過去3か月間作物の世話をする上で大きな役割を果たしてきました。 プロジェクトマネージャーのビューティー・チョマが、なぜジャガイモの栽培方法を学びたいのか、なぜそんなに興味があるのかと尋ねました。 彼女は、新しいことに挑戦したいと思っており、村の他の人々が栽培していない何かに挑戦したいと言っていました。

ペギーは笑顔で言います。「田舎の人たちはジャガイモを食べる習慣がなく、また栽培するのが難しいと思っている人が多いです。都会の人たちだけがジャガイモを食べるので作っても買い手もないだろうと、多くの人はジャガイモ栽培に関心を持っていません。5月にヒマワリを収穫して料理用ヒマワリ油会社に販売しますが、家族用の油を作るためにいくらか保管しています。私の夫はポテトチップが好きで、庭でジャガイモを育てれば、 夫や子供たちのために、チップを作ってあげることができます。将来的には、地元のコミュニティや大きな町の人々にも販売できる大きなジャガイモ農家になれるかもしれません。」





## 新しい統合組合リーダー

2021年6月、ムババラ協同組合のメンバーは、毎年恒例の組合指導者選挙を開催するため に集まりました。 選挙は、COVIDの状況が続いているため、今年は3月ではなく6月に行 われました。

選挙の最初のラウンドは、ムババラ地域内の8つの地区でそれぞれの組合理事会が開催されます。この理事会には全会員が召集をかけられ、それぞれの次期組合リーダーの候補者を選出します。8つの協同組合すべての候補者が揃ったところで、 候補者リストは退任する理事会メンバーと共有され、最後の統合組合理事会が開催されます。

会議の終わりに、それぞれの協同組合は組合議長、書記、会計、および広報担当官を選出 しました。 その後、32人の新しい理事会メンバーが集まり、8つの協同組合すべてを統治 する4人の新しい統合組合理事会メンバーを選出しました。

新しいムババラ女性農民組合(MBAWOFA)統合組合議長のグラディス・ムカンドを紹介しましょう。 グラディスは2005年にMBAWOFAに参加し、4ヘクタールの自然農法トウモロコシと5ヘクタールの落花生(ピーナッツ)を栽培するアクティブメンバーです。彼女には7人の子供と4人の扶養家族がいて、大家族の世話をしているひとり親です。

グラディスは、自然農法によって彼女の生活は改善され、クラブの一員であることでマットを作るなどの新しいスキルも習得し、余剰の収入を得て、大いに助かったと言います。

グラディスと新しいリーダたちと一緒に、ザンビア自然農法開発計画(NADPZ)と Shumeiがプロジェクトを成長させ、自然農法を提唱し続けることを楽しみにしていま す。



# MAKE THE THANGE

# マグンザ地区のデモンストレーション農民紹介

スレッタ・ハチクワクワと彼女の夫ジェイコブを紹介しましょう。彼らは、2005年に協同組合に参加して以来、ハンチムナ地区のデモンストレーション農家です。スレッタとジェイコブは、自然農法プロジェクトの最も活発で献身的なメンバーの一人です。

彼らには8人の子供がいて、4ヘクタールの自然農法のトウモロコシと落花生を栽培する小規模農家です。 ジェイコブが農場での職を失った後、家族を養うのに苦労し、政府が提供する肥料支援制度を利用するのには高額な会費が必要とされ、十分な資金を見つけることができず、彼らはプロジェクトに参加しました。

家族を助けるために、スレッタはハンチムナ協同組合に加わり、彼女のおとなしい性格にもかかわらず、すぐに彼女の仲間によってデモンストレーション農民として選ばれました。 数年後、ジェイコブも会員になり、妻を支援することを決意し、当時はまだ携帯電話は普及しておらず、周辺の村の会員に情報を提供する人がいなかったため、ハンチムナ協同組合の広報担当官として志願しました。

今日でも夫婦は新会員に自然農法を指導し,協同組合のイベントを企画したりなど、組合のメンバーが自然農法を継続して実践できるようにする上で非常に積極的な役割を果たしています。

# カロモ地区の新女性クラブへ マルチ技術の指導





楽しみにしています。

## ペンバ地区の学校農園

5月、教師とPTAの支援を受けた生徒たちは、学校給食プログラムのための自然農法菜園を始めました。 生徒、教師、PTAは、菜園の水やりと管理を担当しました。 学校が休みの日は、教師とPTAが中心に菜園の世話をし、生徒たちは小グループに分かれて、毎日、さまざまな時間帯に菜園を訪れてお手伝いしています。

今年はトマトが上手くいかなかった一方で、キャベツは最も成功した野菜です。 9月に子供たちが学校に戻ってきたときに、学校給食用に立派に育ったキャベツを見せてあげられることを楽しみにしています。